

パラオだより

第9号

日本文化紹介デー 特集号

3学期の最終日、3/14に「日本文化紹介デー」をアルモノグイ小学校で丸一日担当させていただきました。これは朝の8時から午後3時まで、筒井先生が責任を持って、日本の色々な文化をパラオ人に伝えるイベントとなりました。その様子をレポートします。



活動①「習字&箸体験」

日本から持ってきていた両面白紙のうちわを子ども達に一枚ずつ渡しました。そして、好きな単語を一つ言ってもらい、それを漢字一文字に翻訳し、習字でうちわに書いてもらいました。すてきな言葉がたくさん並びました。

同じタイミングで、来てもらっていた栄養士の職員さんに、おはしの使い方をレクチャーしてもらいました。小豆を、おはしを使って素早く移すゲームを企画していて、子ども達はすごく盛り上がっていました。ちなみに普段パラオ人ははしを使うことはありません。



活動②「ウンドーカイ」



年末にもやりましたが、ウンドーカイをやりました。今回は4種目「玉入れ、騎馬戦、ドッジボール対決、ズンバ」でした。来てもらっていた体育職員さんにズンバのダンスはお願いしていました。今回は鬼滅の刃の曲を使ってみんなで踊りました。最初に、炭治郎の服の柄「市松模様」が日本の伝統的なデザインであることも紹介しました。



活動③ 「餅つき体験」

今回のイベントの目玉でした。日本大使館から杵と臼を借りて、もち米も買いました。(つまり、パラオ国内で餅つきをするための道具を全て揃えることは可能です) 本番の1か月前に餅つき名人のとある日本人の方の家で練習しました。

全日から水に浸しておいたもち米4.5kgを4等分して、15分蒸し器で蒸す→つく→次のもち米を蒸し始める→つく→…という休み時間なしの超ハードスケジュールが始まりました。

餅つきの際は、全児童、全教員、そして参加していた全村人に最低一回は杵を振るってもらいました。



ちなみに、その様子を見に、折笠大使(左)と、

ウィップス大統領(右)もおいでになっていました。

つきたてのお餅は、みんな美味しい美味しいと言って食べてくれました。

大変な企画でしたが、パラオ人にとっても馴染みの深い「モチ」がどのような工程で作られるのかを体験できたのはいい思い出になったのではないのでしょうか。



ちなみに、この後は、保健省隊員による運動プログラムを全校生徒で体験し、みんなでかき氷を作って食べました。